
溺愛症候群。

倉田

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

溺愛症候群。

【Nコード】

N5033I

【作者名】

倉田

【あらすじ】

ある日突然理解不能な愛の言葉を捧げられてしまった少女、雪本乃笑。ウブな彼女はだんだん意識してしまっけど……。

「死んでも愛してる」……え？ 「俺を愛すなら相当覚悟いるよ」

……んん？ 同じ人が言ったとは思えない？

学園内で巻き起こる、彼と彼女の極甘らぶ。

プロローグ 死んでも好きな人（前書き）

閲覧ありがとうございます。

当小説には後々少しの性描写が入るかもしれませんが（とは言っても過度なものは無いので期待しないで下さい笑）。
ちよっとしたものでも苦手な方は見ないほうがよいかもれません。

それでは本編よろしく願います！

プロローグ 死んでも好きな人

ある日ある昼下がりにある青年が。そう、名前も知らない様な青年が言ったのだ、日のあたらないベンチに腰掛けて友達とにぎやかに話すその少女に。

ぺたん、と突然地に膝をつき、まるで懇願するかのように瞳を潤わせ少女を見上げ、白い手に自分の形の良い大きな手を置いた。

静かになるその空間を青年と少女のみのモノとするように静かになぶやく。

「死んでも、愛してた……」

無造作に伸びた黒い髪からちらちら覗くあの瞳を決して忘れる事は出来ない、と少女が思ったのは何故だろう。

もしかしたらもう会わないかもしれない。

ただ隣の男の人に面白がって言わされてるだけなのかもしれない。

それにしてもこんな意味の分からない告白を受けて驚かない自分が不思議だ、と少女はまた思う。

普通なら、ほらこうして。

少女の友人達のように、この立膝をして少女の手を握る男をいぶかしがって、そそくさとお弁当の包みを戻し、その場を立ち去ってしまつくらいするのだろうか……。

「え、ちよっ、由衣！ あの人達置いてっていいの？」

「あんな変人放つときなさい！」

確かにそうだけど……。

少女は威勢のいい友人にぐいぐい腕を引かれながら時たま後ろを振り返ってみた。

まだ見てる……。

膝をついたままさつきと同じ格好のまま。

余程変わった人なんだろうな、とあまり気には留めていなかった。

これが雪本乃笑と八城文の奇妙な出会いだった。

騒がしい教室に目立つ事なく馴染んでいたつもりだった。

静かともやかましいとも言えず、普通のおしゃべりを机をくつつけて延々と続ける。それが女子高生ってもんだ。

昼放課。暖かい日差しの中彼女達はさっきの続きでデザートを頬張っている。

「にしてもなんなのさっきの男！ まじウけた！ いきなりしゃがんだかと思えば愛の告白ですかってんだ」

「クサイ！ 今時少女漫画でもあんな台詞吐かない！」

興奮してケタケタ笑う二人に乃笑は少しばかりふくれ面をして黙々とゼリーを食べていた。

何だかいつもよりおいしくない気がする。

「ちょっと、どうして乃笑が怒んのよ」

「由衣も楓も笑いすぎ。人の事馬鹿にして笑うのは誰に対しても不愉快なものよ」

「やーね。ほんとの事じゃんか。あんな異国情緒溢れる王子様みたいな立膝つかれちゃ……ッ」

ぷぷっともう一度思い出し笑いをする。

あーもう今のこの子達に何を言っても無駄ね。本当にゼリーもぬる

くてたまらない。

乃笑がため息をついたのも気づかないようで二人は笑いまくっている。

傍観者は気楽だろう。やられた身にもなっってほしい。

確かに彼の言動には後々よく考えたら度肝を抜かれてしまった。

乃笑は彼と話した事はおろか、見た事も会った事も無かったのだ。だからそんな人と接点なんて頭をひねらせても浮かんでこないし……。

「あれでしょ。あの王子様があんまりにも綺麗だったから見惚れて、しかも怒る気にもなれなかつたんでしょ」

「え？」

そういえばあの人、相当綺麗だったような……。どうしてこんな外見の根本を忘れていたのか分からなかつたけど、一応彼女達には面倒だから否定しておく。

そう。あの人間離れした容姿。

黒髪で深い蒼緑色のような不思議な瞳だった。

授業を知らせる鐘が鳴る。

しかし生徒が先生が入ってくるまで放課と同じく騒がしい。そんな中で、次の授業の準備をしていたのは乃笑くらいだ。

またあの人に会えるかな……。なんて淡い期待をどうしてかしてし

まっているのはまだ由衣達には内緒だ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5033i/>

溺愛症候群。

2010年10月11日15時55分発行